

作新学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

所属	氏名	作成日
人間文化学部発達教育学科	浪花 寛	2024年5月1日

【責務】(何をおこなっているのか/担当授業科目その他)

算数科教育法、特別活動指導法(小・中・高)、総合的な学習に関する指導法(小・中・高)、総合的な学習に関する指導(商)、教職初期指導、教職総合指導、教職実践研究、教職実践演習、教育実習事前事後指導(小)、小学校教育実習

【理念】(どのような考えに基づいて行っているか)

- ・教職を志す学生が、望ましい教育観・指導観・授業観を確立できるよう支援する。
- ・受講生一人一人が、自らが理想とする教師像を持ち続けられるよう支援する。
- ・授業において目指す子どもの学びの姿をイメージしながら、効果的な指導の在り方について考えられるよう支援する。

【方法】(その考えをどうやって実現しているか)

- ・教育・指導・授業の在り方について、受講生が自らと対話し、自分の価値観を見つめるような学修活動を大切にする。
また、受講生相互の交流を通して、より価値観を深めたり広めたりできるようにする。
- ・授業の実践事例を豊富に紹介し、受講生がそれらを活用して教師の在り方や指導法について考えられるようにする。
- ・子供一人一人の成長に寄り添える教職の「楽しさ」や「やりがい」を、経験をもとに具体的に伝えられるようにする。

【成果】(その方法を行った結果、どうなったか、どうだったか。自身の感想・具体的な成果物・学生からのコメントなど)

受講生からは、授業のリフレクションなどを通して「教師という仕事の魅力を改めて実感した」「もっと子供一人一人に寄り添える教師になりたいと考えた」「子供一人一人を大切にするにはどうすればよいか深く考えることができた」「子供のつまずきに対応できるようになるために自分に足りない点を見つめなおすことができた」などの感想が寄せられた。

【目標】(今後どうするか)

教師を志している学生は、それぞれに教職に就きたいという思いをもっている一方で、様々な情報に触れる中で不安も感じている。授業のみならず日常的な会話を通して、教職に就きたいという思いを後押しするとともに、少しでも不安を解消できるようにしたい。また、一方的な指導や情報提供を行うのではなく、学生が自らを見つめなおせるような問いかけを通して、一人一人が自らの教育観・指導観・授業観を確立できるようなコミュニケーションに努めていきたい。